

第96回 春のすぎなみ区民歩こう会ワンポイント・ガイド

一水と緑と公園の散歩道一

神田川

神田川は、井の頭公園から途中善福寺川や妙正寺川を吸収し、台東区・中央区等の都心部を流れ、柳橋で隅田川に合流する全長 24.6km の一級河川である。元の名を「平川」と称し、天正 18 年（1590）徳川家康の江戸入府以来、数々の治水工事が施されました。また、江戸住民の飲料水として「神田上水」を整備しました。高度経済成長期には、生活排水の流入により水質が悪化し、「死の川」と呼ばれていましたが今では周辺の環境整備が進み鯉・鮎・鮒が生息する川で、都民の憩いの場となっています。

薬王院

真言宗豊山派の寺院薬王院は、奈良にある総本山長谷寺に対し、東の長谷寺と称されている。長谷寺から移植されたボタンが有名で、現在 40 種類、1,000 株あり、ボタン寺とも呼ばれ 4 月末から 5 月上旬の開花時には大勢の花見客で賑わう。本尊は薬師如来。境内には江戸時代初期頃からの石造品も多い。



おとめ山公園

おとめ山の由来は、江戸時代このあたり一帯が将軍家の狩猟地で、立ち入り禁止の意味の御留山から起ったものと言われている。落合崖線に残された斜面緑地。

戦後荒れ果てていた敷地を、公園として整備し、昭和 44 年（1969）におとめ山公園として一部開園。その後、平成 26 年（2014）拡張整備が完了し現在の湧水・流れ・池・斜面樹林地からなる自然豊かな風致公園になった。敷地内に相馬家が築造された池泉を中心とした回遊式庭園の一部が残っている。

「山吹の里」の碑

新宿区山吹町から西方の甘泉園、面影橋の一帯は、通称「山吹の里」といわれている。これは、太田道灌が鷹狩りに出かけて雨にあい、農家の若い娘に蓑を借りようとした時、山吹を一枝差し出された故事にちなんでいる。後日、「七重八重 花は咲けども 山吹のみのひとつだに 無きぞ悲しき」（後拾遺集）の古歌に掛けたものだと教えられた道灌が、無学を恥じ、それ以後和歌の勉強に励んだという。



甘泉園公園（かんせんえんこうえん）

当地は徳川御三卿の一つ・清水家の下屋敷があったところ。当地からの湧き水がお茶に適して評判であったことから、「甘泉園」と呼ばれていた。公園の入り口には元禄 7 年（1694）「高田馬場の決闘」における赤穂浪士・堀部安兵衛（1670～1703）の事績を顕彰する「堀部武庸加功遺跡之碑」（ほりべたけつね かこういせきのひ）がある。また、「堀部安兵衛」という銘柄の清酒が、早稲田の地で 350 年以上続くという酒店で販売されている。

肥後細川庭園（旧 新江戸川公園）

細川家下屋敷の庭園の跡地をそのまま公園にした池泉回遊式庭園。湧水を利用した流れは「鑕り水（やりみず）」の手法をとりいれて、岩場から芝生への細い流れとなり、その周辺に野草をあしらっている。池はこの庭園の中心に位置し、広がりのある景観をつくりだし、池をはさんで背後の台地を山に見立てている。その斜面地は深い木立となっていて、秋には真っ赤に紅葉した姿を水面に映し出す。山に続く園路は深山の中の自然の尾根道のようなものである。

公園内には日本・東洋の古美術を中心とした美術館、「永青（えいせい）文庫」があり、旧熊本藩主細川家伝来の美術品、歴史資料の収蔵・展示を行っている。また、隣接地には芭蕉庵がある。

注：池泉回遊式庭園とは大きな池を中心として、その周囲の園路を歩きながら、広がりのある池や背後の山

並みなど様々な風景の移り変わりを観賞出来るように計画された庭園の様式の一つ。



江戸川公園

関口台地の南斜面の神田川沿いに広がる東西に細長い公園。昭和 59 年（1984）に神田川の拡幅工事に伴い改修された。園路を散策すると、様々な景色がパノラマのように展開する。川に沿ってソメイヨシノが続く。途中、様々な重量感のある石が添えられた石の広場や、西洋風の山小屋を模した時計塔のある四阿（あづまや）、藤棚のあるテラスなどがあり、変化に富んだ景観となっている。テラスの先には石組みの池があり、神田上水取り入れ口に使用されていた大洗堰を復原している。河川の名称は神田川で統一されたが、江戸川の名残が公園と駅名に見る事が出来る。

神田上水取水口大洗堰跡（かんだじょうすい しゅすいこう おおあらいせき あと）

天正 8 年（1590）徳川家康の江戸入りの直後、井の頭池から発する流れに善福寺池、妙正寺池の流れを落合であわせ、関口で取水して水路を定めたのが神田上水である。

大洗堰で水は二分され、余水は江戸川に落し、他は上水として水戸殿に給水し、神田橋門外付近で二筋に分かれた。一つは、内堀内の大名屋敷に給水し、他の一つは本町方面、日本橋で北の町屋に給水した。

上水道として最も古い神田上水は大正末年には、水質・水量とも悪くなり、昭和 8 年（1933）に取水口はふさがれた。

漱石公園

この場所には、明治 40 年（1907）から大正 5 年（1916）に、漱石が亡くなるまで過ごした「漱石山房」があった。ここで漱石は、「三四郎」「それから」「こころ」といった代表作を執筆した。現在は、その地の一部が「漱石公園」となっている。現在没後 100 年を記念して新しい記念館を建設中。

穴八幡宮（あなはちまんぐう）

康平 5 年（1062）源義家が奥州からの凱旋の途中、この地に兜と太刀を納め、八幡神を祀ったという。

寛永 13 年（1636）ここに的場が造られ、この八幡宮を守護神とした。寛永 18 年（1641）宮守の庵を造るため、南側の山裾を切り開いていると横穴が見つかり、中から金銅の御神像が現れた。以来、「穴八幡宮」と称するようになった。

3 代将軍徳川家光は、この話を聞いて穴八幡宮を幕府の祈願所・城北の総鎮護とした。歴代将軍がたびたび参拝し、8 代将軍徳川吉宗は、世嗣の疱瘡平癒祈願のため流鏝馬を奉納した。

戸山公園

箱根山地区は、山手線内で一番標高の高い箱根山（44.6m）を中心に 陸軍戸山学校址碑、じゃぶじゃぶ池、児童コーナー、花の広場などの各広場がある。

大久保地区は、箱根山地区とは明治通りを隔てた場所にあつて、箱根山地区と同様芝生広場・花の広場などの各広場、幼児コーナーのほかスポーツセンターがある。公園の総面積は約 186,800 m²で、高木約 4,300 本、低木約 66,700 株、芝生面積約 19,000 m²と緑の多い公園。

注：箱根山 標高：44.6 m の箱根山（はこねやま）は、江戸時代の尾張藩徳川家の下屋敷時代に回遊式庭園「戸山山荘」として整備された際に、池を掘った残土を積み上げ固めて造成されたと伝えられている。